

平成 27 年 度

# 事 業 報 告 書

附. (事業報告に関する附属明細書)

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

公益財団法人

木村看護教育振興財団

## 平成 27 年度 事業報告書

### 1 海外看護研修助成（公募事業）

#### －長期海外研修－

看護師・助産師・保健師の有資格者であって、一定の英語力を有するものを対象として、3週間の研修に要する研修費、滞在費、往復航空運賃等を全額助成する。平成 27 年度は以下のとおり実施した。

#### ① 研修先

アメリカ合衆国ミネソタ州ロチェスター メイヨークリニック

#### ② 研修者数

次の 8 名を派遣した。

入江麻里子（東京女子医科大学病院）、浦里奈（大阪府済生会吹田病院）、大家史愛（独立行政法人国立がん研究センター中央病院）、小陽美紀（済生会横浜市東部病院）、高畑華子（独立行政法人国立国際医療研究センター）、八尋あずさ（大阪大学医学部附属病院）、山下めぐみ（武蔵野赤十字病院）、山本祐子（医療法人財団青溪会駒木野病院）

#### ③ 研修期間

平成 27 年 9 月 19 日(土)から 10 月 11 日(日)までの 3 週間  
(別紙「事業報告に関する附属明細書」を参照)

### 2 看護研究助成（公募事業）

医療機関等で実際に看護等の業務に携わっている看護師・助産師・保健師の資格を有する者又はその者を含む研究グループを対象として、1 件当たり 100 万円を限度として助成する。

平成 27 年度は、次の者が代表研究者である 6 件の研究に対し助成した。

植木美那子（代表研究者 国立病院機構 宇都宮病院）、大村由紀美（代表研究者 九州大学医学部附属病院）、小柳礼恵（代表研究者 東京大学医学部附属病院）、西田佳世（代表研究者 愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科）、濱徹（代表研究者 東京大学大学院医学系研究科）、松井憲子（代表研究者 東北大学病院看護部 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科）

(別紙「事業報告に関する附属明細書」を参照)

### 3 専門看護師奨学金助成 (公募事業)

看護系大学大学院専門看護師教育課程 2 年次進級予定者に対して、1 件当たり年額 60 万円の助成を行う。

平成 27 年度は次の 9 名に対して助成を行った。

加藤智子 (愛知県立大学大学院)、長嶺美奈子 (神戸市立看護大学大学院)、平尾千恵子 (東京大学大学院)、平佐靖子 (日本赤十字看護大学大学院)、福岡志野 (兵庫県立大学大学院)、伏見友里 (日本赤十字看護大学大学院)、山崎麻朱 (高知県立大学大学院)、山本克美 (大阪府立大学大学院)、米田愛 (大阪府立大学大学院)

(別紙「事業報告に関する附属明細書」を参照)

### 4 看護に関する講演会の開催

#### (1) 東京における開催

次の通り、第 69 回看護に関する講演会として開催した。

- ① 日 時 平成 27 年 11 月 7 日 (土) 13 時 30 分～17 時 10 分。
- ② 会 場 東京都千代田区霞が関 新霞が関ビル灘尾ホール
- ③ 演 題 「未来を拓く 看護の力 - 地域における医療・看護の推進と看護教育 PART II」
- ④ 内 容
  - ア 基調講演 1 秋山智弥 京都大学医学部附属病院 病院長補佐・看護部長  
「医療機能の垣根を越えて“まもり・とどけ・つなぐ” 看護職へ！」  
～京都府『看護職連携キャリア支援事業』経過報告
  - イ 基調講演 2 ポーリーン・アブラハム氏 メイヨークリニック看護教育スペシャリスト  
「Population Health Management」
  - ウ パネルディスカッション  
「地域医療・看護の充実に向けた取組みと看護教育を考える」  
ファシリテーター  
山田雅子 聖路加国際大学 看護学部 教授  
パネリスト  
椎名美恵子 訪問看護ステーションみけ 所長・代表取締役

佐々木久美子 医療法人財団慈生会野村病院 看護部長  
宮下恵理 社会福祉法人恩賜財団済生会 熊本病院 看護部長  
クリスティーナ・ピアソン メイヨークリニック CNS

基調講演、パネルディスカッションとも、詳細かつ丁寧な事例報告等により在宅医療・看護に関わる意欲的な取組みが紹介された。

なお、その詳細を「木村看護教育振興財団 平成 27 年度東京講演会の記録」としてまとめた。

⑤ 参加者 345 名

## (2) 佐賀県における開催

佐賀県看護協会との共催により、次の通り第 70 回看護に関する講演会を開催した。

- ① 日 時 平成 27 年 11 月 28 日 (土) 13 時 30 分～16 時 30 分
- ② 会 場 佐賀県看護協会 佐賀看護研修所
- ③ 講 師 村松静子氏  
在宅看護研究センターLLP 代表
- ④ 演 題 「元気に生き抜く」を支える～その人らしさを大切に～
- ⑤ 参加者 150 名

## 5 新たな研修助成の創設に向けた調査

### (1) 高度な看護スキルに係る研修助成の調査

- 本調査は、高度な看護スキルに対するニーズがあり、専門的な研修が実施されている場合において、その研修を希望する看護職者に対する助成が当財団の目的・理念に合うこと、財務条件等に合致するかについて検討し、適切と認められる場合に新たな事業とすることを目的として実施している。
- 財団事務局は、平成 25 年度から 27 年度までの間に病院で勤務する 9 領域 21 名の専門看護師等から意見を聞くなど、ニーズや研修の存在等について検討してきている。
- 28 年 3 月末の検討状況は以下のとおりである。  
まず、専門看護師の方々は、①所属病院・大学等でその専門性に相応しい専門的な役割を果たしており、②独自にテーマを持って調査・研究を行っている

が、一方、③多数の他者とともに受講者となって学ぶ一般的な研修へのニーズは認められないこと。ただし、次のような各ニーズを確認している。

- ① 末期がんなど死に直面した患者とその家族に対するケアのために既に一定レベルの知識経験・スキルを有する看護師を対象として平成 26 年度から行われている専門的看護ケアプログラムによる研修への資金面の支援
- ② チーム医療を高度に実践していく参考とするため、海外医療機関における医師・看護師・その他スタッフが行う意思決定や連携状況、情報共有について現場で学びたいとのニーズ

- ①は緩和ケア推進を目的とする公益法人の取組みであり研修の主要ツールである専門的緩和ケア看護プログラムは開示されていない。しかし、昨年 11 月、同法人は当財団が支援する可能性を考慮し当財団に限定して同プログラムを開示した。現在、当財団は、ねらい通りの研修効果が認められるのか、同研修で用いられる「臨床哲学の手法」等について、説明と客観データの提供を求めている。なお、同法人は本年度から研修の有効性に関する検証を始めている。②については、ニーズの内容の明確化を図ることとしている。

## (2) 訪問看護に必要な看護スキルに係る研修助成の調査

- 本調査は、在宅医療・訪問看護に関する看護スキルに対するニーズに応える専門的な研修が実施されており、その研修を希望する看護職者に対する助成が当財団の目的・理念に合うこと、財務条件等に合致するかについて検討し、適切と認められる場合に新たな事業とすることを目的として実施している。
- 本調査は、これまで在宅医療・訪問看護の実態や課題、支援策について説明を受け意見交換等を行い、ニーズの存在、研修の存在等を検討してきている。  
主な訪問先として、厚生労働省、東京都医療政策及び介護政策担当部局、日本看護協会、日本訪問看護財団、首都圏 4 都県看護協会、全国訪問看護事業協会において全国的な実態と注目すべき事例や支援策を聞くとともに、東京大学大学院、京都大学大学院及び同医学部附属病院、国立長寿医療研究センター、千葉大学大学院、聖路加国際大学及び同病院、慈恵医科大学付属柏病院、淀川キリスト教病院、尾道市民病院、山形県鶴岡地区医師会、東京都板橋区医師会、16 訪問看護ステーション、セントケア・ホールディング株式会社等において、在宅医療・訪問看護に関する取組みの実態と課題を聞いている。  
また、笹川記念保健協力財団から、一昨年度から開始している訪問看護ステーションの起業をめざす看護師支援研修について、ヒアリングを行っている。

これらを通じて、以下のことを把握した。

- ① 平成 27 年 4 月現在、全国で訪問看護ステーションは 8,200 を超えるが、小規模であり(平均 4.5 人/所)、殆どは、経済的余裕もないため職員を研修に出せていない。このため、少数ながら一定の自治体では、特別の財政支援を行って研修の機会を提供する事業が行われていること
  - ② 研修ニーズは体験型から単独で訪問看護ができることを目指すものまで多様であるが、幅広い研修ニーズに対応できる研修実施主体は訪問看護師 10 名を超える体制を備え経営にも余裕がある事業体であること、
  - ③ 在宅医療・訪問看護の推進という観点からは、訪問看護サービスの支援が考えられるが、それとともに、急性期病院における円滑な在宅療養移行に関する支援も重要であること
- 平成 28 年 3 月末現在、当財団が助成する場合の条件を備えていると認められる研修プログラムや研修例は見当たらない。このため、これまでも在宅医療・訪問看護の推進という視点から、看護研究助成、専門看護師奨学金助成、看護に関する講演会の 3 事業を進めてきているが、今後もこれまで以上の取組みを行うこととする。

## 6 刊行物の発行等

### ① 海外看護研修レポート 2014

関係団体・機関における活用を広げるため、発行部数を平成 26 年度の 950 部から 1,080 部に増加し、全国の看護系大学及び主要な病院に提供した。

### ② 看護研究集録 22

看護研究集録についても、平成 26 年度の 800 部から 910 部に増やし、全国の看護系大学及び主要な病院に配布した。

### ③ 「平成 27 年度 東京講演会の記録」

平成 25 年度の当財団創設 22 周年記念講演会、26 年 11 月の講演会に続き好評であり、講演内容等に用いられた資料等についての問合せが多かった。

このため、講演会の詳細を記録として保存し全国の関係大学・病院等での活用に供することとし、講演者及びパネルディスカッション参加者、メイヨークリニックの協力を得て、講演、プレゼンテーション、関係資料を収録した「東京講演会の記録」を作成した。この講演録は全ての看護系大学と主要病院、看護関係者等に近く配布する。配布部数は、平成 26 年度東京講演会

の記録 1,120 部を大幅に上回る 1,420 部としている。

## 7 助成金贈呈式等及び医療・看護関係者の集い等

### (1) 平成 27 年度助成金贈呈式

平成 27 年 6 月 9 日（火）、看護研究助成対象者及び専門看護師奨学金助成対象者に対して、理事、評議員及び選考委員が出席し霞が関ビル 35 階で開催した。

### (2) 海外看護研修認定式・オリエンテーション及び研修報告会

#### ①認定式・研修オリエンテーション

平成 27 年 6 月 29 日（月）、27 年度研修生に対して、認定式を行うとともに、オリエンテーションを霞が関ビル 35 階で実施した。

#### ②研修報告会

平成 27 年 12 月 8 日（火）、霞が関ビル 35 階で理事、評議員及び選考委員の出席を得て開催した。

### (3) 米国看護師と我が国看護師との交流に関する支援

平成 27 年 10 月 27 日（火）から 11 月 9 日（月）まで我が国に滞在したメイヨークリニックの上級看護師 4 名と我が国の看護系大学やナショナルセンター、病院等が交流するに当たり、当財団は、事前に交流に関する日程調整等を行うとともに、自らも米国看護師との意見交換や視察の支援等を行った。

### (4) 国内外の看護関係者の集いの開催

平成 27 年 11 月 7 日（土）夜、当財団は、東京千代田区の霞が関ビル 35 階東海大学校友会館において、第 69 回講演会の開催に引き続き、パーティを開催した。

パーティでは、木村代表理事の挨拶に続き、厚生労働省医政局担当審議官長、日本看護協会会長、日本訪問看護財団理事長、全国訪問看護事業協会会長、メイヨークリニックのポーリーン・アブラハム氏の挨拶が寄せられ、関係機関・団体やこれまでの当財団助成対象者も多数来場され 150 名以上の盛会となった。

会場は、関係機関の方々、メイヨークリニックの方々、メイヨークリニック等がかつて研修した助成対象者等が活発に交流し、我が国と米国の医療・看護に関する情報交換もなされるなど有意義な集いの場となった。

(5) 平成 28 年度の助成事業に対する公募及び応募者への対応

- ① 当財団の 3 助成事業の公募に関する周知を深めるため、公募開始を 1 週間早め、平成 27 年 10 月 13 日（火）から平成 28 年 1 月 22 日（金）までを期間として公募を行った。
- ② 3 助成事業の公募のお知らせは、財団ホームページに掲示するとともに、出版社の好意により看護専門誌 10 誌にも公募のお知らせの掲載を行った。

以上



平成 27 年度

事業報告に関する附属明細書

- 1 海外看護研修助成者名簿
- 2 看護研究助成者名簿
- 3 専門看護師奨学金助成者名簿

平成27年度 海外看護研修助成対象者名簿

メイヨークリニック 8名

敬称略 五十音順

氏 名	勤 務 先	職 名
いりえ まりこ 入江 麻里子	東京女子医科大学病院	看護師 (看護師)
うら りな 浦 里奈	大阪府済生会吹田病院	助産師 (看護師・助産師・保健師)
おおいえ ふみえ 大家 史愛	国立がん研究センター中央病院	看護師 (看護師・保健師)
こよう みき 小陽 美紀	済生会横浜市東部病院	看護師長 (看護師・助産師・保健師)
たかはた はなこ 高畑 華子	国立国際医療研究センター	看護師 (看護師)
やひろ あずさ 八尋 あずさ	大阪大学医学部付属病院	看護師 (看護師・保健師)
やました めぐみ 山下 めぐみ	武蔵野赤十字病院	看護師 (看護師)
やまもと ゆうこ 山本 祐子	医療法人財団青溪会 駒木野病院	看護科長、精神看護専門看護師 (看護師・保健師)

平成27年度 看護研究助成対象者名簿

6件 430.5万円

敬称略 五十音順  
単位:万円

代表研究者 氏名	勤務先	職名	研究課題	助成額	申込額
植木 美那子 うき みのこ	国立病院機構 宇都宮病院	看護師	パーキンソン病療養者の配偶者の体験に関する研究 -療養者が臥床生活となる以前の時期に焦点を当てて-	26	26
大村 由紀美 おほむら ゆきみ	九州大学病院看護キャリアセンター	看護師	看護職のOff the Job Training担当者に求められる教育能力の構成要素と影響因子 -Off the Job Training担当者への全国調査-	62.5	100
小柳 礼恵 こやなぎ れい	東京大学医学部附属病院	看護師長	創傷治癒遅延状態の褥瘡に使用する創傷被覆材の検討	82	96
西田 佳世 にしだ かつよ	愛媛県立医療技術大学 保健科学部看護学科	准教授	高齢者施設入所中の認知症高齢者への夜間高照度光源法が概日リズムと BPSD出現状態に及ぼす影響 -高齢者施設において活用可能な認知ケアの構築に向けて-	90	100
濱 徹 はま ととむ	東京大学大学院 医学系研究科	修士課程 大学院 生	看護職以外の社会人経験を経て就職した看護師の就業状況実態調査 -役割ストレスと能職意向の関係-	80	100
松井 憲子 まつい けんこ	東北大学病院看護部 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科	急性・重症患者看護 専門看護師 副看護師長 博士課程 大学院生	重症敗血症患者におけるICU退室後症候群の早期発見と予防に向けた ケアプログラム開発に関する研究	90	100
合 計				430.5	522

平成27年度 専門看護師奨学金助成対象者名簿

9名

敬称略 五十音順

氏名	大学院名	専門分野
かとう ともこ 加藤 智子	愛知県立大学大学院	家族支援
ながさき みなこ 長嶺 美奈子	神戸市看護大学大学院	がん看護
ひらお ちえこ 平尾 千恵子	東京大学大学院	がん看護
ひらさ やすこ 平佐 靖子	日本赤十字看護大学大学院	老人看護
ふくおか しの 福岡 志野	兵庫県立大学大学院	在宅看護
ふしみ ゆり 伏見 友里	日本赤十字看護大学大学院	精神看護
やまさき あさみ 山崎 麻朱	高知県立大学大学院	小児看護
やまもと かつみ 山本 克美	大阪府立大学大学院	在宅看護
よねだ あい 米田 愛	大阪府立大学大学院	家族支援